

2013年7月31日(水) 18:00~18:45

【出席者】

取締役常務執行役員 経営管理担当 小酒井 健吉

取締役常務執行役員 開発本部長 三津家 正之

常務執行役員 経営戦略担当 製品戦略部・事業開発部担当 村上誠一

執行役員 営業本部 副本部長(営業企画担当) 吉川哲男

【2013年度第1四半期決算】

損益全体

Q/第1四半期の売上原価率(41.9%)が上期業績予想(39.0%)に比べて、約2ポイント高いが、その理由は？また、特殊要因があってこのまま上振れるのか？それとも、第1四半期は高かったが、上期では下がるのか？

A/第1四半期の上期業績予想に対して原価率が上昇している理由については、レミケードの購入価格改定を予想には織り込んでいるが、第1四半期では改定が行われなかったことが影響している。この他、為替の影響、原価率の高いワクチンなどが伸長したことも影響している。したがって、第1四半期の原価率は想定線にある。

インヴォカナ(TA-7284) \* ヤンセンファーマシューティカルズに導出

Q/米国でのインヴォカナの立ち上がりが好調のようだが、どのように見ているのか？短期的には影響は無いかもしれないが、将来的にはロイヤリティが上回るような状況ととらえているのか？

A/先方から説明を受けているものとしては、専門医の処方箋枚数がすでにいくつかのDPP-4阻害剤を抜いてトップになったと聞いている。当社としても期待していたが、非常に好調に立ち上がっていると認識している。

Q/ロイヤリティ計上のタイミングはいつか？

A/契約では、各四半期終了後60日以内にロイヤリティを受け取ることになっている。したがって、2013年4月~6月分のロイヤリティは、当社第2四半期に計上される。

レミケード供給価格仲裁裁定

Q/決算への取り込みのタイミングは？業績を修正するのか？

A/現在、最終裁定結果を待っている。遅くとも第2四半期には、裁定結果をお知らせすることができる予定。業績見通しの修正については、その影響を確認の後、必要があれば実施する。

## テネリア

Q／第 1 四半期の売上は？2、3 億円か？

A／今期に入り、売り上げはプラスになっている。2、3 億円よりは下である。これから 9 月の投薬期間制限解除に向けて、さらに強化していく予定。

Q／通期の販売計画(35 億円)は据え置くのか？

A／販売計画は変更していない。

## ラジカット

Q／売上は減収だが、計画に対する進捗は悪くない。これは、一過性の要因か？

A／一過性の要因では無い。ジェネリックの浸食率は、直近では 40%弱まで上がっており、今後も引き続き浸食率は上がるとみている。上期計画に対する進捗は想定範囲内。

## **【開発パイプライン】**

### ジレニア(多発性硬化症)

Q／ノバルティスが最近タイサブリを投与していない患者さんで、進行性多巣性白質脳症(以下 PML)を発症したとの報告を行っているが、日本で、同様に PML の発症報告が出ている投与例があるか？

A／タイサブリの投与歴の無い患者さんでの PML の発症は、これまでの 71,000 例の中で初めてである。ノバルティスとこの症例について情報交換しているが、MRI 上で非定型的な症例であり、本当にジレニアに起因するものかどうかも含めて情報収集をしている状況と聞いている。

### インヴォカナ(TA-7284)(2 型糖尿病)

Q／米国を中心に、どこかのタイミングで治療ガイドラインを変更しようとの話が学会で出る気配はないか？

A／治療ガイドライン変更に係わる話は聞いていない。むしろ、保険償還のポジションに力を入れていると聞いている。ヤンセンファーマシューティカルズの戦略として、米国での第 1 選択薬であるメトホルミンに上乘せしようとしている。さらに、これを保険償還のセカンドティアに持っていくための最大限の努力を行っている。DPP-4 阻害剤のようにセカンドティアに入っていければ、さらに大きく伸びると認識している。

### TA-1790(勃起不全)

Q／米国、欧州などで承認を取得しているが、販売はどうなっているのか？

A／欧州に関しては、メナリーニとの提携が決まったとすでにお知らせしている。欧州 40 カ国以上とオーストラリア、ニュージーランドが対象となる。米国については、ヴィーヴァスのマネージメント体制が強化されたので、販売先決定に力を入れてくれると期待している。

【メディカゴ買収】

Q／ワクチンで海外展開を目指すのが戦略か？

A／これまでも低分子化合物で海外展開を目指していた。今回のメディカゴの買収は、低分子化合物以外にも海外展開を目指す、ひとつのチャンスと考えている。

Q／フィリップモリスインターナショナルと共同買収になった経緯は？

A／当社より先に、フィリップモリスインターナショナルがメディカゴに出資し、技術の相互利用をしていた。フィリップモリスインターナショナルは引き続きメディカゴとの協業に興味があったため、今般、当社と一緒にメディカゴを運営していこうということになった。

Q／フィリップモリスインターナショナルの保有分を買い取る権利を持っているのか？

A／出口についても両社で検討はしているが、詳細は非開示。

Q／メディカゴを買収することにより、バランスシートを含めて会計上どのような影響が出るのか？また、今期の業績を修正しないのか？

A／これから約 2 ヶ月かけて、メディカゴを買収することによる、当社の連結決算への影響を精査する。「のれん」なのか仕掛研究開発費なのかも含めて、その結果を待つ必要がある。また、業績見通しの修正については、その影響を確認の後、必要があれば実施する。

以上